

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171000217		
法人名	英和株式会社		
事業所名	グループホーム ぼっかぼか		
所在地	埼玉県八潮市大字八條50番地		
自己評価作成日	平成30年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成30年 3月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活支援という業務を職員が理解し、掃除、洗濯、調理等、残存機能を活用して頂けるようご入居者様一人一人に合った介護・介入を行っている。ご入居者様が馴染みのある空間となるよう、本人の意思、ペースを尊重しつつ人間らしい生活を行って頂くために生活のリズムをコーディネートしている。ゆったりとくつろげる空間として、和室や中庭等がある。お一人でのんびりされたり、他ご入居者様同士の交流の場として提供できている。外出機会を重視し、室内行事や毎月のおやつ作り、フラワーアレンジメント等、日々の生活の中に季節感や余暇の楽しさを演出している。楽しみや新鮮な交流を増やすことを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、利用者一人ひとりの出来ることを見極めながら、出来る人の役割とそれが難しい人に対しても職員が支えながらの役割を演出することを運営の基軸としている。また、それを理解できる職員を育てることを自身の役割としている。3ユニットの夜勤者が、夜勤明け当日の生活プランを立てているのは、当日の天候や利用者の健康度も知り尽くしていることより有効であり、日勤者へ申し送って“ぼっかぼかの1日”を決めているという。行事が多いことから、職員自身も楽しんでの笑顔が多くなり、それが利用者にも伝わっている。メセナ歌の発表会は恒例となり、利用者の出演参加で賑わう。各ユニットにある畳の部屋は、掘りごたつもあり、ベランダデッキへも通じた語らいの場である。段差はあるが職員の見守りも含め有効に利用されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は常に職員が確認し合えるよう、玄関その他に設置している。理念を理解し実践できるよう、勉強会を実施している。	開設時からの事業所理念の他、年度目標として「職員のモチベーションを上げる」として相応の手ごたえを得ている。カンファレンスで理念を共有し、掃除や食事家事への利用者参加を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を定期的開催し、地域の情報交換を行っている。町会にも加盟し、町会行事に参加している。施設の行事には地域のボランティアにもご参加いただいている。	町会に加入しており、自治会館での夏祭りなどに参加している。近隣の方やボランティア交流も活発でハーモニカ・マンドリン・舞踊など取り入れている。事業所の夏祭りには近隣へのお誘いをする。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事や運営推進会議を通じて、地域交流を深めていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いた情報を防犯対策や外出等に活かしている。	地域包括支援センター(または市担当者)、自治会、老人会長他の参加があり、二ヶ月毎に実施している。自治会長からの防犯対策は参考になり、後に、防犯カメラを三台設置した。外部評価結果も公表する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括センター職員或いは市役所職員にご参加頂いている。地域密着サービス事業所連絡会議に参加し、情報交換を積極的に行い、協力関係の構築に努めている。	地域密着型サービス事業者連絡協議会を市主催で開催している。良き交流の場となっている。介護相談員の来所が月に一度あり、都度、報告を受け話し合う場もある。選挙投票を希望される方の同伴もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けている。勉強会やカンファレンスを行い、職員全員が理解できるよう努めている。	事業所理念にも取り上げており、ユニット毎のカンファレンスでも事例を挙げての勉強会を行っている。立ち上がりの激しい方への声掛けなど、皆で話し合い、個別対応で共有している。拘束ゼロのマニュアルも持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスの場での事例検討や、勉強会により、虐待防止を職員全員が理解できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用しているご入居者様に必要な際に説明することで、互いに知識・理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安や疑問が残らないよう十分な説明を行っている。改定は書面でお知らせし、必要に応じて説明している。ご家族には署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様には意見や希望を表して頂ける様、関わり方や雰囲気作りに努めている。ご家族やご友人へ要望を記した手紙の取次ぎも行っている。ご家族とは電話連絡や面会時にコミュニケーションを図り、意見を伺うようにしてる。玄関には意見箱を設置している。	苦情相談マニュアルで、本社含めての対応としている。家族来訪時に意見を聞くようにしているが、携帯電話やショートメールでの意見交換もある。通路の歩行器が妨げになっているとの意見には、即対応した。	運営推進会議への家族参加が少なく、家族会の発足に向かったこともあるが、現在は断念している。家族向けアンケート等を実施し、大きなイベント他への参加と協力を求めている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は意見箱やカンファレンス、日々の業務の中でも適宜意見交換し、必要に応じて個人面談も行っている。代表者には内容を報告し、改善に努めている。代表者も直接面談の機会を設けている。	日々の業務の中でも、極力意見を聞くようにし、個別面談の場も作っている。インフルエンザ対策での提案を受け、加湿器の増設やタオル干しを行った。好結果を得て、職員間でも評価している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通じて現場の意見や勤務評価を行い職場環境や条件に配慮できるよう努めている。代表者も直接面談の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や資格取得を奨励している。補助や給付も行き、資格取得を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス事業所会議や地域の協議会を活用して交流・情報交換を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にアセスメント情報に目を通した上でご入居様と関わっている。コミュニケーションを図り傾聴を多くするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の話し合いによって、ご意見ご要望を十分聞き取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の十分聞き取りに基づいて、サービスを検討、ケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの理念に基づき過度な介護・介入をせずご入居者様の生活に寄り添う意識を持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的には手紙で報告を行っている。必要に応じて病院受診にご家族と職員が一緒に同行したり、電話連絡や面会時にコミュニケーションを図り、意見交換をしながら連携に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	葉書や手紙、電話の取次ぎを行ったり、ご家族やご友人との面会、あるいは外出をして頂いている。	友人の来訪もあるが、筆まめな方で手紙を頻繁に出す方もある。電話の取次ぎも行っている。従前利用の美容院へ娘さんと出掛ける方や、自宅へ戻って近辺を散歩される方などもあり、家族とも協力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じた介入を行い、利用者同士が円滑な関係を築ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に相談可能な環境作りを意識している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重すべく、日々コミュニケーションを通じて希望や意向の把握に努めている。物品購入や受診の希望等、ご家族と連携しながら、実施に努めている。	入居時の聞き取り情報を共有しているが、日々の暮らしの中でも聞くようにしている。タンス購入を希望された方とは、一緒に組み立てを行った。表現困難な方には、幾つかの選択肢を出し決めてもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の聞き取り等を通じてサービス利用の経過、生活歴や環境の把握に努め、ケアに取り入れるよう努めている。入居後もご家族と連携し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録やカードックス、月次を作成し、情報を共有。日々の申し送りで特変事項をしっかりと申し送っている。往診医等、医療機関とも連携している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや月次を作成し、ケアプラン見直しの検討材料としている。ご家族や医療関係にも適宜相談し、ケアプランに反映させている。	通常は六ヶ月見直しとし、必要に応じ早めに行っている。居室担当者を含めたカンファレンスは、ユニット毎に意見を寄せ合っている。家族へは、来訪時に説明するが、電話で説明し承諾捺印を貰う方もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やカードックスを作成して日々の様子を一目でわかりやすくしている。申し送り等で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員一人ひとりの意見を検討しながらサービス変更も考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の往診医への移行されるか入居前のかかりつけ医を継続されるか、ご本人とご家族の希望により選択して頂いている。	入居前のかかりつけ医を利用してる方もあり、家族の協力を得ている。訪問医は、ユニット毎に来館し、ほぼ毎週相談できている。臨時往診や夜間の連絡もとれる体制で、看護師も非常勤でいるのは安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でご入居者様の状態把握に努め、適宜看護師に相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーを提出。面会時には状況把握に努め、ご家族とも情報交換を行う。退院後についても適宜話し合いの場に立ち会い、相談を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期の際の契約を書面で交わす。重度化・終末期に至る状況においては適宜ご家族、往診医と相談し、ケアの方針を進めていく。	重度化・看取りの指針を入居時に説明している。医師からの要請を受けて、家族を含め終末期の過ごし方を相談している。事例として、家族の希望を受けて看取った際は、家族の協力が大きかった。事後に、職員間での振り返りも行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員の資格取得を目指し、救命講習を受講させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニットにマニュアルが設置されており、年二回防災訓練を行っている。	避難訓練は年二回実施しており、利用者は前庭の駐車場まで誘導している。夜間想定では3～4名職員での動きを確認しており、人員数の確認を一義とする。水害時には、垂直方向への避難を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した声掛け、声のトーンにも気をつけている。	プライバシー保護のマニュアルもあり、外部研修も含めて勉強会を行っている。利用者一人ひとりへそれぞれの対応が必要と考えている。排泄時の声掛けも、自然の流れの中のタイミングを大切としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で入居者の好き嫌いを把握。コミュニケーションに努め、希望を表しやすい環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定をコーディネートしつつ、本人のしたいこと、意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みで服を決められるよう関わっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取り入れたり、目でも楽しんで頂けるよう盛り付けにも工夫をしている。また、一人ひとりが作業できるメニューも取り入れる事で、ADL低下の予防に努めている。	山東菜を、利用者が冬の風物として漬けてくれる。月に一度の日曜日では、仕入れから調理まで、利用者の協力がある。外食は利用者からも要請があり、行事食でも好きなメニューを聞き、楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を常にチェックし、無理の無い提供が出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後促しており、適宜介助にて口腔ケアも行っている。毎日義歯消毒も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、タイミングを見て、また羞恥心にも配慮してトイレの促しを行っている。	失禁や排泄の状況はチェックし把握している。日中は、普通にトイレを使用してもらい、夜間のオムツ使用の方も特別な方以外はない。退院後でADL低下の方は、リスクを考慮し段階的支援とする。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体操やレクリエーションを行う事で便秘予防に努めている。往診医にも相談できている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば入浴できるよう、環境作りに努めている。	週二回だが、努力目標として週三回としている。時間は、希望に沿っているが、当日のイベントを考慮して決めている。お風呂嫌いな方へは、脱衣所まで自然に足の向くよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	健康的な生活のリズムを促しつつ、日頃の関わりを通してご入居者様の体調・体力の把握に努めることで、適度に休息や昼寝を取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の変更時は、周知の徹底を図り、様子観察をし、変化の確認でに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や季節毎のイベント、カラオケ等、メリハリのある生活支援ができています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	物品の購入や受診の希望等、ご家族と協力し希望の実現に努めている。天候やご利用者様の体調等を考え、散歩やドライブ等、外出できている。少しの時間でも気分転換できるように中庭での外気浴も行っている。	近隣散歩道に前入居者の自宅があり、途中で一息つくときもある。草加公園やフラワーパーク等へも行く。サーカスへ同行したときは笑顔が一杯だった。希望の外出先があれば、家族と相談しており、選挙へ行きたいと言う方には、職員が同行した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食や買物等で、商品を選び、購入して頂く機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の取次ぎは、適宜行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の装飾に季節感を取り入れることで雰囲気演出にも心がけている。照明や室内の温度にも配慮できている。	畳の部屋があり、部屋の先はベランダデッキである。横になったり洗濯物を置んだりの憩いの場である。制作物の桃の木は春を呼んでいる。風邪予防から大型の加湿器を導入した。掃除も、主は利用者で、職員がフォローする考え方である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファー、和室とスペースを確保しており、居室も含めてお好きな場所でくつろいで頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具等を持ち込んでいただき、安心感や居心地に配慮している。	備品としては、クローゼット・空調機・照明であり、他は使い慣れ親しんだ家財他を持ち込んでいる。床に絨毯を敷き、靴を脱ぐ場所を作っている方もある。仏壇を持参し、お経を上げる方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレの場所が分かる環境を作りができています。		